

週休2日制試行工事の 実施について

国土交通省 中部地方整備局 岐阜国道事務所 副所長 こはた としゆき
小幡 敏幸

1. はじめに

建設業界においては、技術者の高齢化や入職者の減少など、従来からの構造的な問題に加え、東日本大震災からの復旧・復興や2020年の東京五輪開催に向けた建設投資の増加により、全国的に技術者の不足が顕在化している。特に、近年の若者は、幼少期から「週休2日」が習慣化しており、「週休2日」を確保できない建設業への入職は敬遠されがちなため、若手技術者の不足は深刻な状況となっている。この若手技術者の不足は、熟練技術者からの技術継承が進まないなど、建設業の将来さえ危惧される重大な課題であり、若手技術者の入職・定着・育成に向けた取り組みが必要不可欠である。

これに対し、国土交通省では若手技術者が入職・定着しやすい環境づくりに向けて、様々な施策をもって取り組みを推進している。その一つに「建設現場における『週休2日制』の確保」がある。しかし、建設現場に対して「週休2日制」を導入した場合における効果や課題などは、現状で十分に把握できていない。

そこで、中部地方整備局 岐阜国道事務所では、現状の建設現場で「週休2日制」を確保した場合における評価や課題・問題点を把握するた

め、「週休2日制・工程調整綿密対応工事」を試行した。ここでは、この試行工事における取り組み内容と、工事を通して明らかとなった現場の意識や課題と対応策、今後の取り組み方針について紹介する。

2. 試行工事の概要と取り組み内容

(1) 工事概要

今回、「週休2日制・工程調整綿密対応工事」の対象とした工事の概要を以下に示す。

- ① 工事名
 - ・平成26年度 東海環状大垣西ICランプ橋床版工事
- ② 工事箇所
 - ・岐阜県大垣市桧（図-1）
- ③ 工期
 - ・平成26年9月2日～平成27年7月21日
- ④ 発注者
 - ・国土交通省 中部地方整備局 岐阜国道事務所
- ⑤ 受注者
 - ・西濃建設株式会社
 - ・現場常駐者：監理技術者（40代男性）
現場代理人（40代男性）
- ⑥ 主な協力会社
 - ・鉄筋工事業，大工工事業，とび・土工工事業



図一 1 試行工事箇所位置図と現地状況写真

管工事業 など

(2) 試行取り組み内容

当該工事において「週休2日制」の確保を目的として試行した取り組み内容を以下に示す。

① 発注者が実施する取り組み

- ・会議形式での週間工程会議を開催せず、ASPサービスを利用した情報共有システムにより工程調整を実施。
- ・監督員との日々の打合せを現場事務所で実施。これにより、現場の把握・確認を適時実施した打合せが可能となり、受発注者の会議等に要する時間（移動を含む）の削減が図れる。

・受注者及び協力会社の現場担当者に対し「週休2日制」ヒアリング調査の実施。

② 受注者に求めた取り組み

- ・原則、土・日曜日は休日に設定し、現場従事者（協力会社含む）は、土・日曜日を完全休日とする。
- ・現場施工に対する課題抽出のため、「週休2日取得表」により作業工程を管理し、休日取得率を検証する。
- ・協力会社の実態調査及び意識度把握のため、協力会社（技能労働者）へのアンケート調査を実施する。

(3) 受注者が実施した具体的取り組み

前述の受注者に求めた試行取り組み内容に対して、受注者が工事で実施した具体的な取り組みは次のとおりである。

- ① 「週休2日制」が実施可能な協力会社の選出
 - ・「週休2日制」を前提とした協力会社への作業依頼及び会社選出。(苦慮した)
 - ・これに対し、会社全体で試行工事以外にも3件の工事を受注していた状況を受け、他工事との協力会社の一体運用などにより、必要な人員(技術者)を確保した。
- ② 協力会社との綿密な打合せを実施
 - ・昼間休憩時に進捗状況確認及び作業終了時に翌日の作業予定確認・調整を日々行うことで、綿密な工程管理を行った。
- ③ 新規入場者に対するアンケート調査の実施
 - ・新規入場者に対し、年代別に「週休2日制」に関する意識調査及び所属会社の取り組みについてアンケート調査を実施した。

3. 試行結果による現状や課題

(1) 現場担当者に対するヒアリング調査

本試行工事の実施途上において、受注者の現場常駐者に対し「週休2日制」に対する意識度や考えられる課題などをヒアリングにより調査した。

① 「週休2日制」の意識度について

土曜日が休工となったことにより、家族サービスが向上したとの評価を得た。しかし、その一方で、土曜日を休工とするために、平日における書類整理等の内業時間が増加したとの弊害も確認された。

② 考えられる課題などの意見

今回の試行工事は調整が必要な関連工事がない単独工事のため、概ね計画どおりに休日を取得できたが、例えば工事用道路の運用管理が必要な関連工事がある場合は、「週休2日」取得に関しても関連工事との調整が必要不可欠であり、実現に向けては関連企業が一体となった取り組みが必要

であると考えられる。

(2) 「週休2日取得表」による作業工程管理

本試行工事で実際に作成・運用した「週休2日取得表」(平成26年12月分)と、この「週休2日取得表」に基づき休日取得率を検証した結果を図一2に示す。

この図一2より、週休2日(4週8休)の達成率は、4週あたり8.1日と8日は確保できていることが分かる。なお、土・日曜日の連続休日取得率においては、雨天等により計画工程の見直しが必要となったことで、66%の取得率にとどまった。

なお、「週休2日取得表」の作成により、現場においては、

- ① 休日取得の意識度が高まる。
- ② 休日取得を確保したうえで、天候不良などにより柔軟に対応した工程調整を可能とする。といった効果があった。

(3) 協力会社へのアンケート調査

受注者が新規入場者に対し実施したアンケート調査の結果(平成27年3月末時点)を図一3に示す。調査の結果より、「週休2日制」の確保に向けて以下に示す現状と課題が明らかとなった。

① 年間を通じた休日計画の構築

図一3の番号6の結果からも分かるように、「週休2日制」に協力的な会社は少ない。これは、繁忙期である9月～3月の間は、土曜日を作業日とする建設業界における「企業カレンダー」が影響しているものと考えられる。

このため、「週休2日制」を確保するためには、建設業界における年間を通じた休日計画の構築が必要である。

② 技能労働者の処遇

図一3の番号3及び8の結果より、技能労働者(特に日給制)は、土曜日が休日となることにより所得が減額となることを懸念していると考えられる。これに対しては、勤務日数が減少しても所得が減額とならないような取り組みが必要となる。

週休2日取得表

平成26年		○休日予定日																															休 日 予 定 日 数	休 日 実 施 日 数	評 価	
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
工程	種別	場 所	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水			
準備工																																				
鋼構足場等設置工	新設補強他	Dランプ																																		
RC床版工	型枠工・コン工	Dランプ																																		
RC床版工	鉄筋工	Dランプ																																		
RC床版工	電気通信・伸縮	Dランプ																																		
構理工・交通規制	市道3684線35号線																																			
受注者	西濃建設	現場代理人	堀崎 俊之	●	●	●	●	○	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	9/31	11	良
	西濃建設	監理技術者	後藤 智之	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	9/31	10	良	
	西濃建設	品質証明員	小島 英司	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	●	△	△	△	●	9/31	10	良	
足場工	A会社	Aaさん																																		
	A会社	Abさん																																		
	B会社	Baさん																																		
	B会社	Bbさん																																		
	B会社	Bcさん																																		
	B会社	Bdさん																																		
鉄筋工	C会社	Caさん																																		
	C会社	Cbさん																																		
	C会社	Ccさん																																		
	D会社	Daさん	●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	○	△	△	△																				
作業内容	鉄筋工		●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	○	△	△	△																				
	"		●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	○	△	△	△																				
	"		●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	○	△	△	△																				
	"		●	●	●	●	△	△	△	●	●	●	○	△	△	△																				

■ 「週休2日取得表」に基づく休日取得率（対象期間：平成26年11月～平成27年6月末）
 ・週休2日（4週8休）の達成率：100%（休日の取得実績から4週で8.1休日を取得）
 ・土、日曜日の連続休日取得率：66%（土日連続休日取得22週／全体週数33週）

図一 本試行工事における「週休2日取得表」と休日取得率

入場時アンケート(週休2日)

～女性・若手技術者の入職を支援する取り組み～

大垣西ICランプ橋床版工事 作業所 西濃建設株式会社

一時集計（平成27年3月末現在）

番号	質問内容	10代		20代		30代		40代		50代		60代		全体	
		3名	3名	34名	34名	32名	32名	32名	32名	14名	14名	12名	12名	127名	127名
1	建設業で働く、女性・若手技術者は少ないと感じますか？	3	0	33	1	31	1	27	5	13	1	11	1	118	9
		100%	0%	97%	3%	97%	3%	84%	16%	93%	7%	92%	8%	93%	7%
2	女性・若手技術者は週休2日にすることで、建設業に入職者が増えると思いますか？	1	2	20	14	15	17	19	13	9	5	9	3	73	54
		33%	67%	59%	41%	47%	53%	59%	41%	64%	36%	75%	25%	57%	43%
3	週休2日になることで不安なことはありますか？（給与、残業、工事の進捗、家庭等）	2	1	19	15	23	9	17	15	6	8	6	6	73	54
		67%	33%	56%	44%	72%	28%	53%	47%	43%	57%	50%	50%	57%	43%
4	週休2日に魅力を感じますか？	3	0	23	11	19	13	23	9	10	4	6	6	84	43
		100%	0%	68%	32%	59%	41%	72%	28%	71%	29%	50%	50%	66%	34%
5	今後、このような週休2日の現場が増えると思いますか？	3	0	17	17	19	13	21	11	8	6	8	4	76	51
		100%	0%	50%	50%	59%	41%	66%	34%	57%	43%	67%	33%	60%	40%
6	所属する会社は週休2日に取り組んでいますか？	1	2	8	26	8	24	9	23	3	11	1	11	30	97
		33%	67%	24%	76%	25%	75%	28%	72%	21%	79%	8%	92%	24%	76%
7	所属する会社は週休2日に協力的ですか？	2	1	12	22	8	24	15	17	6	8	1	11	44	83
		67%	33%	35%	65%	25%	75%	47%	53%	43%	57%	8%	92%	35%	65%
8	女性・若手技術者が、建設業に入職したくなるような案はありますか？	・特に無し		・賃上げ ・お金 ・給料UP ・完全週休2日 ・現場清掃維持		・賃上げ ・給料UP		・賃上げ ・給料UP ・十分魅力的 ・完全週休2日		・特に無し		・賃上げ ・給料UP			
考察	女性・若手が少ないことは実感している。 ・30代は週休2日に対する不安を感じている割合が高い。 ・週休2日に魅力を感じている人が全般的に多い。	・40代、50代は週休2日にすれば入職者が増えると感じる人が多い。 ・週休2日に取り組む会社が少ない、協力的な会社も少なく思える。（現場従事者は感じている） ・給料に対する意見が少ない。（賃上げ、給料を上げる）													

図一 新規入場時アンケート結果

4. 課題解決の対応と今後について

(1) 課題解決に向けての対応案

本試行工事を通じて明らかとなった現状や課題は前述のとおりである。これらの現状や課題に対し、発注者が取り組むべき対応としては、以下に示す対策等が考えられる。

① 計画的な発注と適正工期の設定

現状で土曜日を作業日とする建設業界の「休日計画」の改善に向け工事の平準化を図るため、計画的な発注と適正な工期設定が必要である。

これには、「契約手続き期間の短縮」や「国債制度の積極的な活用」などの具現化が有効であると考えられる。

② 日給制技能労働者の処遇改善

「週休2日」を確保しても技能労働者の所得に影響が及ばないように、「週休2日」を考慮した労務者単価の見直しを検討していく必要がある。

具体的には、実態調査などによる現況単価の精査などを推進すべきであろう。

(2) 今後の取り組み

本試行工事により、建設現場に対し「週休2日制」を導入した場合の効果や課題を検証を行ったが、まだ十分とは言い難い。

今後は、「完全週休2日制」の試行工事を実施し、更なる検証を進めていくことが重要である。

5. おわりに

「建設現場における『週休2日制』の確保」に向けた取り組みは、まだまだ始まったばかりであり、今回の試行工事でも明らかとなったように、「週休2日」の定着にはまだ多くの課題がある。

しかし、「週休2日」が当たり前となってきている現在の社会環境の中で、若手技術者が入職・定着しやすい環境づくりにおける「週休2日」の実現は、土曜日の作業を標準とする建設業界に突きつけられた切実かつ重大な課題であり、取り組みの手綱を緩めるわけにはいかない。

国土交通省としても着実に取り組みを推進していく所存であり、関係する各主体の更なる協力・連携をお願いしたい。